



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和7年2月28日

学校評価アンケートのご協力ありがとうございました

過日、保護者の方々にお願いした学校評価アンケートの結果をご報告します。これは本校の教育活動について幅広くご意見を伺い、次年度に活かしていこうとするものです。ご協力に感謝申し上げます。

結果は右表の通りですが、4点満点としての評価平均ですので、概ね良い評価をいただけたものと思っています。また、本校の教育活動について多くのご意見・ご感想をいただきました。その幾つかをご紹介します。①学習について「クラスによって教えられてない所がテストに出たりしないように、テストを作成する先生は事前に他の先生にも確認してほしい」「宿題の量が多すぎて他の勉強時間の確保が難しい」。②進路指導について「1年からもっとリアルな進路情報などを伝えてほしい。2年次に受けれる模試を増やして欲しい」。③PTA研修会について「WEBでも見れるようにしてもらいたい」などのご意見の他に、④スキー学習での事前指導の問題点のご指摘、⑤教員の指導内容や方法への疑問、⑥教員の資質向上の必要性についてご意見をいただきました。こうした改善すべきことのご指摘の一方で「さらに子どもの『やりたい!』を出させる授業や諸活動の取組に期待している」など、自主性を伸ばす取り組みに対する評価の声もいただきました。

この学校評価を先日の職員会議で共有しました。これらのご意見に対して真摯に耳を傾け、反省や改善すべきことは次年度の課題として位置づけ、評価されたことについては今後の励みとしてさらに一歩進めてまいります。本当にありがとうございました。

	評価項目	今年度 (昨年)
1	本校の教育内容は、生徒や保護者の期待や要望に依っている。	3.1 (3.1)
2	生徒の主体的な学びにつながる授業を行い、学力の向上を図っている。	3.1 (3.1)
3	学習と部活動を両立させる適切な指導が行われている。	3.0 (3.1)
4	他を思いやりいじめのない公平公正な行動のできる生徒を育成している。	3.1 (3.1)
5	生徒の主体的な活動を促し、自主自律の態度を養っている。	3.2 (3.1)
6	生徒理解を基に家庭と連携して組織的な生徒指導や生徒相談が行われている。	3.0 (3.0)
7	生徒の進路意識を高め、生徒自らが進路選択できるように指導している。	3.2 (3.2)
8	HP、学校通信「木蔭静け」、学年通信などを活用して、学校の教育活動や情報を積極的に発信している。	3.1 (3.0)
9	健康と安全に関する教育が適切に行われている。	3.1 (3.1)
10	本校に入学させて良かった。	3.4 (3.4)

奥秋さんスケート世界ジュニア選手権制す

イタリアのコラルポで行われたスピードスケート世界ジュニア選手権で、2年の奥秋静子さんが500メートルで、自己ベストを更新する39秒00で優勝しました。奥秋さんは1月のインターハイ(岩手県)で同種目の連覇を達成しており、その力が世界に通じることを示してくれました。また、23日に帯広で行われた全国高校選抜スピードスケート競技会では1000mで大会記録で優勝し、今シーズンを締めくくりました。奥秋さんの声は『きらり』でどうぞ!



北海道地学協働アワード2024 本校が2年連続特別賞受賞

今年度の北海道地学協働アワード2024において、本校が特別賞を受賞し、このほど十勝教育局より賞状が授与されました。本校の代表として探究発表を行った2年の鳴海ころさん、北村心菜さん、荒井莉子さん、竹原莉乃さんの4人が賞状を受け取りました。4人は、「国際結婚」をテーマに実際に国際結婚をされた方やブライダル関係の方を取材し、手続きの大変さや日本人の両親が否定的なケースもあるものの、それでも宗教や文化の違いを超えて相手を理解した上で共生していることに感銘を受けたようです。そして世界をより身近に感じられる地域づくりを訴えました。



これからの探究が楽しみです。

節電運動結果

今回は昨年度より使用量が下回りました。日頃の小さな取組が実を結んだものと思います。継続して節電に協力をお願いします!

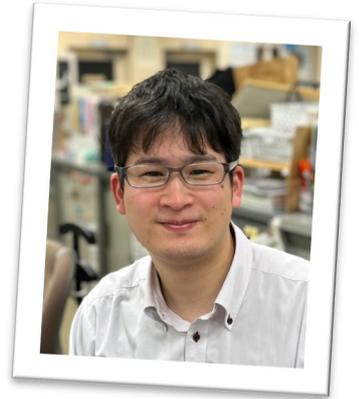
	1月
一昨年度	19,188kWh
昨年度	19,319kWh
今年度	19,194kWh



情報セキュリティコンクール 谷脇音葉さん優秀賞受賞

IPA(独立行政法人情報処理推進機構)が行っている、ひろげよう情報セキュリティコンクール・ポスター部門で2年の谷脇音葉さんが優秀賞<北海道警察サイバーセキュリティ対策本部>を受賞し、このほど表彰されました。作品は戦隊ヒーローがネット使用上の注意をするというもの。谷脇さんは「子どもの頃から親しみのあるキャラクターならわかりやすくネットの危険性を理解してもらえと思いました」と話していました。





第44回 2-6担任・陸上部顧問 内田 健太郎 教諭

勉強は誰でもできるようになる！

◇あっという間の1年。もっと勉強しなくては。

本校に異動してきて約1年。あっという間でした。生徒たちに自分の大好きな化学を教えたくて教員になりましたが、まだまだ自分自身が勉強しなくてはならないと感じた1年でした。

私は自分が「生徒のわからない気持ちが一番よくわかる教員」だと思っています。というのも自分自身があまり勉強が得意ではなかったからです。私の時代は理科を2科目選択し、IとIIをそれぞれ勉強することになっていました。私は小学校の時から先生になりたくて、中学に入ると理科が面白くなり理科の先生、高校に入ると化学が面白くて化学の先生になりたいと思っていました。そこで化学と物理を選択したのですが、物理がとにかくわかりませんでした。物理を選択したのは電気が好きだったから。でもほとんど電気の話なんてでてこないわけですよ。物理Ⅱになるともうぶんぶんかんぶん。3年前期の仮評定が10段階で出たのですが、評価が「1」でした。夏休み中に教科担任の先生がつきっきりで職員室で補習です。必死にやっていたつもりなんですけど、記憶にあるのは先生の指毛が長いなあってこと。まったくわからないまま高校時代が終わりました。

◇理解のためにはまず質より量

一度目の受験は残念ながら失敗に終わります。予備校に通うことにしたのですが、そこで出会ったのは医学部を目指して浪人を何年も続けている“長老”と呼ばれる先輩でした。物理がわからないと言うとまずこれをやれと参考書を教えてくれました。それを一通り一気に3周やってみようというのです。自分はしっかり理解してからじゃないと次には進めないと感じていたのですが、まずはやってみる、インプット優先です。とにかく

量をこなしていくと、あら不思議、ちんぷんかんぷんだった物理が整理されてストーンと自分の中に入ってきたのでした。もちろんインプットだけではなく、自分のやる気も大きな要因だと思います。私の夏休みの補習がそうだったように、やらされる勉強ではダメなんです。自分がやりたい、わかりたいという意欲や姿勢が大事なんです。だから私は生徒によく言うのです。「勉強は誰でもできるようになる」って。勉強ができなかった教員は世の中にはたくさんいるでしょうけど、そのできなかった教科を教えている教員はそうはいないだろうと思います。その人間が言っています。だから、みんな諦めないで、まずは量をこなしてみよう！

◇期限付き教諭でのこと

教員を目指すのはずっと変わらず、大学を卒業して期限付き教員を3校でやっていました。工業高校を振り出しに、次に単位制大規模校、そして最後は商業科のある高校でした。地域も北海道の端から端まで、ほぼ横断するくらいのもので環境も文化も違います。そういった様々なタイプの学校と地域を経験できたことは、今、振り返ると自分にとって本当に大きな財産になっていると感じています。今は目の前のことをやるのが精一杯ですが、ここ三条でもっと成長できるよう頑張ります。これからもよろしくお祈りします。

最後に、人の縁・つながりとは本当に不思議なものです。私が期限付き2校目に赴任した時、対応してくださった教頭先生は、あの指毛の長い先生でした。

インタビュー

キラリ

スピードスケート世界ジュニア選手権女子500m優勝

2年2組 奥秋 静子さん



2月8日にイタリアで行われたスピードスケート世界ジュニア選手権女子500mで優勝した奥秋静子さんにインタビューしました。奥秋さんは12月にポーランドで行われたジュニアワールドカップでも同種目で優勝していました。それが自身初めての海外遠征だったということでしたので、海外での試合は大変なのではないか聞いてみました。

「むしろ国内の方が緊張します。ライバルのことが気になったり、ピリピリした空気感も伝わったりしますから。それに比べて海外はまず言葉がわかりませんし、相手がどんな人なのかわからないので、逆に自分のことだけに集中できて、練習どおりに滑れるような気がしています」。そこで「でも海外だと食事とか大変ではないですか」と聞くと、「もちろんこちらから日本食も用意していきますが、今回はポーランドのホテルがとてもよいホテルで、食事とても美味しかったです」と笑い、こう続けました。「イタリアの食事は美味しいと誰もが言うので楽しみだったのですが、地方によって味付けも違うようで、今回はちょっと私の好みとは違っていました。後藤先生もイタリアは美味しいからと日本食は少なめにしていたんですが、みんな口に合わなくて結構困っていました」と笑います。あら、以外でした。

「ポーランドでは今年のタイムランキングからそこそこの勝負になるかなとは思っていましたが、優勝できたのは大きな自信になりました。イタリアでは組み合わせもシャッフルで始めの方だったので、気楽に滑れました。その後どんどん力のある人が滑っていったのですが、タイム測定にラグがあって、速報タイムが少し速い数値で出るんです。その後に公式タイムとして少し遅い数値が発表されていました。ですから速報タイムが出る度に『あ、抜かされた』と思っては公式タイムではまだ1位という具合で、最終結果がでるまで待っている間の方が緊張して疲れました」と打ち明けてくれました。そうやってドキドキしながらの優勝という結果に「世界ジュニアに照準を合わせてきたので本当に嬉しかったです」と喜びを語ってくれました。

帰国後もレースは続き21日からは高校選抜大会に出場。500mでは序盤のミスが響き2位に終わるも、1000mでは見事優勝し、今シーズンを締めくくりました。最後に来シーズンの抱負を聞かせてもらいました。「私としてはずっと1000mをやっていたので、そこでも世界で戦える記録を目指したいです。高校生の大会で圧倒的に勝てるようにすること、そしてシニアでも通用できるよう頑張りたいと思います」。そして女子が2年生2名しかいない現在のスケート部のことにも触れ、「来年の1年生と一緒にチームの底上げをして4連覇目指していきたいと思います。男子も力を付けてきているのでアベック優勝目指します」と力強く話してくれました。来シーズンにも期待大ですね！